



(写真) @EdmundoGU “ゴンサレス候補 米州各国を周り、ベネズエラ大統領としての支持獲得に奔走”

1月10日の大統領宣誓式

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

当 選大統領が大統領就任を宣誓する2025年1月10日までわずか2日に迫っている。

マドゥロ大統領、エドムンド・ゴンサレス候補の両名が同日に大統領就任を宣誓する姿勢を示しており、1月10日に何が起きるかによって今後のベネズエラの流れは大きく変わることになる。

本稿では1月10日に起こり得るシナリオを確認し、各シナリオ後にどのような展開が起こり得るかについて考察してみたい。

2人の大統領が宣誓

大統領の任期は6年(憲法230条)。

当選した候補者は、任期最初の年の1月10日に国会で宣誓し、大統領職に就任する。何らかの突発的な原因により共和国大統領が国会で就任宣誓ができない場合には、その就任宣誓は最高裁判所で行う(憲法231条)。

この憲法規定に従い2025年1月10日に国会で大統領就任を宣誓した大統領は、2031年1月10日まで大統領としてベネズエラの国政を担うことになる。

周知の通り、「選挙管理委員会 (CNE)」は、マドゥロ大統領の再選を発表。ベネズエラ公権力である「司法 (最高裁)」「立法 (国会)」「民衆 (倫理委員会)」も CNE の発表を認めたため、国内公権力はマドゥロ大統領が当選したとの認識で一致している。

一方、野党陣営は、大統領選で票操作が行われたと主張し、野党側が推薦したエドムンド・ゴンサレス候補の当選を主張。米国および米州の親米国家は、野党陣営の主張を支持し、マドゥロ政権に敗北を認めるよう求めている。

結局、両者の主張は平行線をたどったまま現在に至り、1月10日にはマドゥロ大統領、ゴンサレス候補の両名が大統領就任を宣誓する姿勢を示している。

ゴンサレス候補 友好国周り支持獲得に奔走

野党側はゴンサレス候補の当選を裏付ける証拠として、投票機から印刷される「アクタ」と呼ばれる投票データの一部を公表。

また、独自のウェブサイトには85%のアクタの投票データを集計した結果を公開 ([RESULTADO CON VZLA](#)) した。

同ウェブサイトの情報によると、ゴンサレス候補の得票率は67% (約744.4万票)、マドゥロ大統領の得票率は30% (約338.5万票) でゴンサレス候補が当選したことになっている (詳細は「ウィークリーレポート No.366」参照)。

これを受けて、ベネズエラ検察庁は「野党がアクタを捏造し、不当に行政権力を奪おうとしている」と主張。ゴンサレス候補に対して、事情聴取に応じるよう命じた。

しかし、ゴンサレス候補は検察庁からの召集に応じず、2024年9月に検察庁はゴンサレス候補に逮捕令状を発行した。そして、同月にゴンサレス候補は、マドゥロ政権と合意を交わしスペインへ亡命することとなった。

スペインに亡命したことで大統領就任を放棄するかに見えたが、ゴンサレス候補は「2025年1月10日にベネズエラへ帰国し、大統領に就任する」と表明。

現在はアルゼンチン、ウルグアイ、米国などを訪問し、各国大統領や政府要人と面談し、国際社会からの支持獲得に奔走している。

今後パナマ、ドミニカ共和国への訪問が予定されているが、就任日前日の1月9日にはベネズエラに帰国する必要があることを踏まえると、時間的な制約から2カ国を回ることは難しいのかもしれない。



(写真) @EdmundoGU

与党 ゴンサレス候補の逮捕に意欲

ゴンサレス候補は、ベネズエラへ帰国し1月10日に大統領就任を宣誓すると述べているが、前述の通りベネズエラ国内ではゴンサレス候補は指名手配されている。

1月3日に検察庁は「ゴンサレス候補の逮捕につながる情報を提供した者に10万ドルの報酬を支払う」と発表。ゴンサレス候補に懸賞金をかけ、所在に関する情報を募った。



(写真) AlNavio

“ゴンサレス候補の懸賞金ポスターを張る
治安当局職員”

また、カベジヨ内務司法相は「国内の治安を守るため、全国に2万人の特別部隊を配備する」と発表。

「ゴンサレス氏が指一本でもベネズエラ領土に入れば彼は拘束される」と言及し、「決してゴンサレス候補をベネズエラに入国させない」との姿勢を示している。

なお、大統領就任日前日の1月9日には与党・野党ともに政治集会を実施する予定。

本稿を執筆している時点で集会の会場は発表されていないが、恐らく野党はチャカオ市界隈で集会を行い、マドゥロ政権は野党の集会場と比較的近い場所で集会を行うことにはないだろうか。

ゴンサレス候補 入国可否はほぼ五分五分

このような状況で考えられるシナリオはどのようなものだろうか？本稿の最終ページにシナリオチャートを掲載しているので、同チャートを参考に筆者の見解を記載したい。

最初の分岐ポイントは「ゴンサレス候補がベネズエラに入国できるか」「入国できないか」である。

どのような手段で入国を試みるのかは明らかにされていないが、「陸路」「海路」「空路」のいずれかであることは間違いない。マドゥロ政権は、全てのルートでの入国を拒むため厳重な警備体制を布くことだろう。

仮にゴンサレス候補がベネズエラに入国できるとすれば、治安当局内部でそれなりのポジションにある人物、あるいは治安当局の情報にアクセスできるマドゥロ政権高官がマドゥロ政権を裏切り、ゴンサレス候補に協力していることになる。

また、支援国の外交車などでベネズエラに入国する可能性もある。ただし、これもあり得そうな手段なので、外交車であってもマドゥロ政権のチェックを受けずに越境することはできないだろう。

ゴンサレス候補の入国可否をパーセンテージで示すのであれば、個人的には「入国できる可能性」は45%、「入国できない可能性」は55%と想像している。

また、野党が1月9日に呼び掛けている政治集会に関して、ゴンサレス候補がベネズエラに入国できたとすれば、2024年8月末から公の場に姿を見せないマリア・コリナ・マチャド氏(以下、MCM)も同日の政治集会に姿を現すのではないかと想像している。

入国後は大使館に避難

次に「ベネズエラに入国できた」として、ゴンサレス候補には逮捕される恐れがある。逮捕を逃れるためにゴンサレス候補は支援国の大使館で匿われる可能性が高い。

ゴンサレス候補は、「安全にベネズエラに入国する手段」を確保するだけでなく、「入国後の避難先(避難先を提供してくれる大使館など)」も事前に確保しておく必要がある。

別の言い方をすると、入国後の避難先が事前に確保できないならば、ゴンサレス候補はベネズエラに入国しないと想像している。

ゴンサレス候補はベネズエラ帰国後に様々な迫害・脅迫を受けることが予想される。彼は高齢で持病もある。ベネズエラに帰国しない方が彼にとって幸せなのではないかと考えるのは筆者だけではないだろう。

また、ゴンサレス候補が帰国することで、与野党の政治的な混乱が深化することになり、「制裁強化」→「ベネズエラ経済の悪化」→「国民の生活悪化」という展開につながる可能性が高まる。

ゴンサレス候補が「ベネズエラに入国」し、「大統領就任を宣誓」した場合、このシナリオが現実化する可能性は決して低くないだろう。

なお、2019年~22年まで暫定大統領を務めたファン・グアイド氏は、2019年と2020年に2度、ベネズエラを出国し、逮捕されることなく、一般旅客機でベネズエラに帰国したことがある。

2019年は「Copa Airline」の旅客機に搭乗しパナマから帰国。2020年は「TAP」の旅客機に搭乗し、ポルトガルから帰国した([「ベネズエラ・トゥデイ No.261」](#)[「No.405」](#))。

グアイド氏は、この2度の入国時を含めて、マドゥロ政権に逮捕されたことは1度もなく、大使館に避難することもなかった。

なぜなら、検察庁がグアイド氏を指名手配にしたのは2023年10月で、それまで彼に逮捕状は出ていなかった。グアイド氏が米国に亡命したのは23年4月なので、米国亡命後に逮捕状が出たことになる。

一方、ゴンサレス候補は既に逮捕状が出ており、グアイド氏のケースとは異なる。従って、入国に失敗した場合、ゴンサレス候補が逮捕される可能性は決して低くない。

入国できなかった場合、外国で大統領就任か

次に「ベネズエラへ入国できなかった場合」を考察してみたい。

ベネズエラへの入国を試みるに当たり、マドゥロ政権内部関係者の協力が得られなければ（あるいは入国後に避難する大使館が確保できなければ）、ゴンサレス候補は入国を断念することになるだろう。

また、ゴンサレス候補がベネズエラに入国しない方が問題が複雑にならないため、現実的な観点から取って入国しない可能性もある。

そして、ベネズエラに入国できなかったとして、ゴンサレス候補は「外国で大統領就任を宣誓する」か「大統領就任を宣誓しない」かの選択を迫られる。

ゴンサレス候補は、インタビューで「外国で大統領に就任することは考えていない」とコメントしているが、この言葉を鵜呑みには出来ない。

チャレンジする前からベネズエラに入国できなかった場合について言及するのは、支持者に弱腰と思われる、求心力が落ちるため、インタビューでは「外国で大統領に就任することは考えていない」と回答するのが普通だ。

このコメントは「(現時点では)外国で大統領に就任することは考えていない」「(ベネズエラに入国できないことが確定した場合は、その時に外国で大統領就任を宣誓するかを判断する)」と解釈するのが妥当だろう。

個人的には、「ベネズエラへの入国に失敗した場合」は「外国で大統領就任を宣誓する」可能性が高いと想像している。

そして、グアイド暫定政権と似たような状況（欧米・親米国を中心に外国でのみベネズエラ政府と認識されるが、ベネズエラ国内はマドゥロ政権が実効支配する状況）になり、膠着状態に陥った結果、与野党協議を再開せざるを得なくなる。

特に2025年に予定されている「地方選（市長選・州知事選・市議会議員・州議会議員選）」および「国会議員選」が与野党協議を後押しすることになるだろう。

しかし、与野党協議ではマドゥロ政権が「ゴンサレス政権の解散」「制裁の全解除」を求め、ゴンサレス政権は「政権交代のためのプロセス」を求めることで協議は破談。

一部の野党勢力は、ゴンサレス政権から離れ、選挙に参加するが、野党の主流勢力は地方選、国会議員選に参加することなく選挙が実施される。

そして、2026年以降もマドゥロ政権の実効支配が続くというのがあり得そうなシナリオではないだろうか。

なお、「ベネズエラへの入国に失敗」し、「大統領就任を宣誓しない」場合は、政治的な対立は深化せず、与野党協議が進み、野党が地方選、国会議員選に参加する道も開けることだろう。ただし、短期間での政権交代の道は閉ざされることを意味する。

以上

